

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

インターハイ登山を取り上げた番組（再放送）の紹介

NHKで10月25日に放映された「グッと！スポーツ」をご覧になった方はいるでしょうか？番組では、キャシャールの登攀でピオレドールを受賞した登山家の花谷泰広さんを通じて登山の魅力を紹介していた。未踏峰や未踏のルートに挑戦し続ける花谷さんは、日本のみならず世界を代表する登山家である。花谷さんは現在八ヶ岳の麓を本拠地とされているが、長野県にも随分ゆかりがあって、僕自身も多少のお付き合いがある。番組では、里山からヒマラヤの山までという広いフィールドで登山をされ、今は次世代の若い登山者を育てるプロジェクトを立ち上げている花谷さんの活動を通じて、山の魅力を伝えようとしていた。クライマックスは、花谷さんの人生を変えた馬目弘仁さんとのメルメ、シャークスフィンShark's Finの登攀。なかなか興味深い構成になっていた。

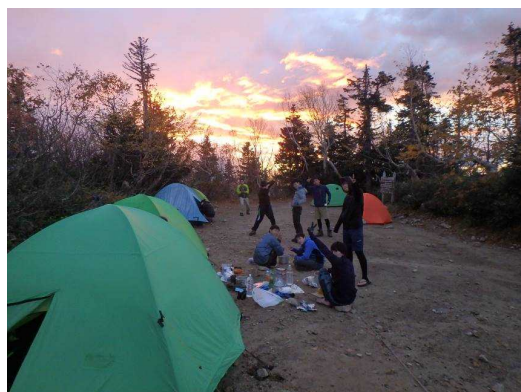
さて、そんな花谷さんの山登りは、高校山岳部時代のインターハイに出場したところにそのルーツがあるということで、この番組の中では、あまり知られることのない高校山岳部のインターハイが紹介されていた。私事ですが、筆記テストの場面、設営の場面に本校の生徒たちが何か所かに登場しました……。

紹介のための映像は、三重菰野町鈴鹿山脈で行われた今年の大会のものが使われていた。本放送は先週の火曜日に行われたのだが、その再放送が火曜日午前1時45分に行われるそうである。見逃した方、興味のある人はご覧ください。

山岳部の魅力を語るには最適の番組である。部員を増やしたいと考えている山岳部顧問の先生、来年度の部員勧誘のときに使えますよ……。

台風に振り回された秋合宿

岳陽の秋合宿は、今年は後立山縦走を2泊3日で計画した。大谷原から入り赤岩尾根を登り、冷池で一泊、翌日は五龍、最終日は唐松から八方に抜けようというもの。しかし、10月6日は、大型の台風25号が日本海を北上。7日の午前中まで強風が予想された。予定通りだと、台風が最接近するときに風の通り道である冷池のテント場、吹き戻しの風の中を八峰キレットを通過するという最悪のシナリオが考えられた。最後の最後までどうしようかと悩んで、少しでもリスクを減らそうと、出発の朝の決断は、扇沢から入山



して、種池にテントを張るというものだった。台風の襲来が大きく報道されていたためかハイシーズンにも関わらず入山者は少なかった。今回は男子のみということで、ハイペースで進み、昼前には種池についた。上空を流れる雲はかなり速く、風は強いが、まだそれほどでもない。しかし、先に行く事はあり得ないので、顧問は名物のピザをつまみに生ビールで安着祝。種池山荘には、もし最悪の場合は、小屋に逃げ込むかもしれないことをお願いし

ておいた。樹林帯の中の種池のテン場は、比較的穏やかである。まったりとした時が過ぎていく。時折、鹿島槍が顔を見せる。夕刻には美しい夕焼けも眺められるほど。回鍋肉とちらし寿司という豪華な夕食を食べおわるころから、少しずつ荒れはじめ、夜は一晚中荒れていた。しかし、思ったほどではなく、被害はなかった。

翌日は予想通り吹き戻しの風が強かったが、爺ヶ岳を越え、赤岩尾根から下山した。それにしても秋の3連休の合宿は、ここ3年連続で台風の影響を受けている。しかし、山は逃げない。縦走はまた来年・・・。

体育センターの講習会に参加しましょう

長野県体育センターの講習会「高校生が安全に登る冬山・春山登山」が11月20日に開催される。センターによれば、現在の参加者は12名。定員は20名なので、まだ余裕があるとのことだ。

この講習会は栃木の事故を受けて、設定されたものである。今年、長野県では、顧問養成が必要ということで、6月に山岳総合センターの講習会、7月には体育センターの講習会が開かれたが、今回の講習会はこれらに次ぐ、今年3回目の講習会となる。

第1回目は、「安全登山の考え方(今滝講師)」「那須岳雪崩事故報告(大西)」「高校山岳部の安全登山対策(大西)」「救急法の実技(今滝講師)」を、第2回目は「安全登山をどう考えたらよいか(渡邊雄二講師)」「山の気象(猪熊隆之講師)」「読図技術(大西)」を、行って来た。高校山岳部顧問が今、研修を積み力をつけることが全国的にも大きな課題となっている中で、池迫高体連登山専門部委員長とも話をしながら、前2回の講習会については、主催者である体育センターや山岳総合センターとも話し合いをし、一定高体連としての要望を聞き入れてもらって講習会を行うことができた。

今回もこれらの上に立って、雪山・冬山に入るための講習会ということで設定されている。冬山・春山に入る学校の顧問はもちろん、入らない顧問であっても顧問として冬山における安全対策を知っておくことは、顧問としての必須事項であろうかと思う。体育センターによれば内容はまだこれからということで、参加者のニーズや経験などをもとにこれ煮詰めていくのだそうだ。

昨年度、長野県では独自に高校山岳部の冬山登山のルールを策定した。その際に、引率顧問の資格等についての言及もあったが、最終的には県や山岳センターなどの主催する講習会への参加は最低限のルールにしたいという考えも示された。その意味では、今年県内の公的な機関が行う最後の講習会となる。冬山・春山登山を計画している学校はいうまでもなく、それ以外の学校の顧問にもぜひ参加していただきたいと思う。山の技術に終わりはないし、これが絶対というものもないと思う。その意味で、僕は今までどんな講習会や研修会でも勉強にならなかったことはない。僕自身も謙虚な気持ちで受講したいと思っている。自主的・前向きにとらえ参加し、一緒に山について学びましょう。

編集子のひとりごと

きのこが豊作だそうだ。しかし、その一方で遭難事故が増えている。山菜採りやキノコ取りを遭難事故というのはちょっと辛い。そろそろシーズンも終わりだが、今年は3年の担任をしているので、進路関係で忙しくてキノコ取りにいつている暇もなかった。推薦入試が一段落したらゆっくり日だまり歩きでもしたいものだ。(大西 記)